

# 議 会 だより



# 小豆島町

## No.23

平成24年2月1日 発行



## 全国の舞台で勝負！

全国中学校駅伝大会で、31位の好走！池田中チーム(No.36)  
(アンカー東口聡子さん〈3年〉)

- 審議議案  
一般会計補正予算など ..... 2
- 一般質問  
10名の議員が質問 ..... 4
- 住民の声・町の力 ..... 10



# 12月 定例会

第4回定例会が12月20日、22日に開催され、第1日目は一般質問、答弁が行われ、条例の一部改正や平成23年度補正予算を含む11議案や議員発議による「意見書」が2件提案され、原案通り可決しました。

第2日目は、付託議案の採決が行われ、原案どおり可決しました。

なお、9月開催の第3回定例会で、決算特別委員会に付託した「平成22年度決算認定」については、決算特別委員長から審査報告を受けた後、質疑・討論・採決を行い、賛成多数により認定しました。

## 審議した主な議案

### 補正予算(第6号)

補正予算額は2億8,746万円の増額で、補正後の予算総額は82億166万9千円となります。

主なものは、台風6号および12号、15号により被害が発生した道路、農地等の復旧工事費用です。

### 総務費

空き家改修費等補助金

250万円

移住者に提供する空き家の改修費用(1件50万円)について、当初予想を上回る申請があったため増額するものです。

### 衛生費

予防接種業務委託料(日本脳炎特例分)

410万5千円

日本脳炎の予防接種が推奨されていなかった年代の人に対し、接種を勧めるものです。

### 商工費

「醬の郷」景観整備事業補助金

150万円

小豆島町商工会が、馬木バス停近辺を整備するための補助金です。

### 消防費

市町総合事務組合負担金

819万4千円

東日本大震災に伴い、亡くなった消防団員の公務災害補償が多額になったため、全国の消防団員から一律に集めるものです。

## 災害復旧費に2億4,409万円



大きな被害を受けた町道谷尻白浜線

### 教育費

天狗岩丁場跡遊歩道等整備工事実施設計業務

136万円

### 災害復旧費

台風災害復旧工事

2億4,409万円

谷尻白浜線の道路など台風被害を受けた場所に対する復旧費です。

## 土地の確認

田浦漁港施設用地新設工事に伴い公有水面埋立てが竣工し、新たな土地が生じたため、議会の議決を求めたものです。



田浦漁港埋立地

## 議員発議

2件の意見書を関係省庁、大臣あてに提出しました。

地域医療確保のために医師および看護師確保対策の充実を求める意見書

### △主な内容▽

- ・ 農業用燃油に係る軽油引取税の免税等に関する意見書
- △主な内容▽
  - ・ 農業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置の恒久化
  - ・ 免税対象の拡大
  - ・ 油種に関わらず、農業者への負担が増えるような措置の回避
- ・ 医師・看護師の偏在解消と計画的な養成を図り、医療提供体制を確保すること
- ・ 看護師養成機関に対する整備や補助の拡充
- ・ 勤務医師の就労環境の改善
- ・ 潜在看護師の再就職の促進や離職の防止策を講じること
- ・ 地域医療に従事する医師の確保対策

報告

決算特別委員会審査

平成22年度小豆島町歳入歳出決算認定については、決算特別委員会で審査(3日間)した結果、意見をつけて認定するものと決定しました。(二部抜粋)



総括意見

未収金対策については、各担当課と収納対策室の取組みにより成果が表れているが、一方で新たな未収金が発生している。新たな未収金が発生しないよう留意されたい。

個別意見

- **オーリーブバスの利用促進と利便性向上について** (企画財政課)  
島民が「自らの足は自らで守る」という意識を持つことが重要であり、そのための利便性向上を事業者に対して求め、引き続き利用促進に係る啓発と支援に努められたい。
- **オーリーブ栽培振興の方向性について** (オーリーブ課)  
島内のオーリーブ栽培面積はほぼ全盛期と同等に拡大したが、今後西日本各地で栽培が進む中、トップワンであり続けるためには、今後の栽培振興について、目標と方向性を定め、企業・個人に対する効果的な支援と奨励に努められたい。
- **集客施設の適切な管理運営について** (商工観光課：オーリーブ課)  
集客施設からの意見やクレームを耳にすることがあり、こうした意見に対し真摯に対応し、改善に努めるよう、指定管理者に対する指導を徹底されたい。
- **学校関係予算の充実及び適正化について** (学校教育課：企画財政課)  
学校関係予算については、需用費、備品購入費などが不足しがちである。子どもたちに充実した教育環境を提供するため、予算の充実と適正化に努められたい。
- **芸術家村の作品保存と活用について**  
これまで多くの作品が作られ、展示されてきたが、地元に残ったものは少なく、十分に活用されているとは言い難い。教育や観光など多面的な活用に努められたい。

11月29日

第3回臨時会

第3回臨時会は、11月29日に招集され補正予算など2議案が提案され、原案どおり可決しました。

条例の一部改正

小豆島町職員の給与に関する条例の一部改正  
国の人事院、県の人事委員会勧告を受けた、町職員給与引き下げが主な内容です。

専決処分

一般会計(第5号)補正予算額は3,455万の増額で、すべて台風被害に伴う復旧費です。  
主なものは、次のとおりです。  
**災害復旧費**  
町道谷尻白浜線、柿の木谷サレ線等復旧工事  
695万円

委員会活動報告

教育民生常任委員会

平成23年11月2日と12月8日に委員会を開催し、執行部の出席を求め説明を受けた後、次の意見を出しました。  
※内容は要約しています

福祉と医療の

今後の方向性について

- 病院統合については、まずは両町の合意形成に努められたい。
- 新病院において医者を呼ぶのは住民の力であり、病院の現状、将来について広く説明する方法を検討されたい。



- 病院統合に向けた執行部の動きについて、大方の委員からの支持が表明された。新病院への具体的な構想について、積極的に関係者との協議を進められたい。
- 町民への説明資料について委員会として了解した。
- 両町議会、両町ともに連絡を密にし、歩調をあわせ、十分連携を図って住民への説明に努められたい。

交通問題特別委員会

平成23年11月1日委員会を開催し、執行部の出席を求め説明を受けた後、次の意見を出しました。

ジャンボフェリーの利用状況と経済効果について

- 小豆島だけでなく、香川県全体にとっても大きな経済効果をもたらしている。今後も島の魅力づくり、PR等に積極的に取り組まれたい。航路復活を歓迎し、航路事業者の英断に感謝と敬意を表する。
- 坂手港における乗降施設については、早急に改善を図られたい。



新たな人の流れを生み出せるか

# 一般質問

12月議会の一般質問において  
10名の議員が質問に立ちました。

## 大坂城・岩谷残石群に光を！

町「天狗岩周辺を整備し、  
住民が訪れる機会をつくる」



浜口 勇 議員

質問 岩谷残石群は九州黒田藩が400年前に採石した。つい先ほど作業を中断した状態で保存され、国指定の文化財になっている。天狗岩丁場跡は石の大きさと数で見ると圧倒する。町民に現地を見学する機会をつくっては。そして、明治時代までの250年間、家臣を岩谷に住ませ管理させた歴代の黒田藩主に敬意を表する。東京在住の16代当主に先祖の残した岩谷残石群を見に来ていただきたい。

今後、天狗岩周辺の遊歩道とトイレの整備をして、地元の方にも現地を訪れる機会をつ

くっていききたい。2年後の「瀬戸内国際芸術祭」には天狗岩周辺と石の文化がテーマに上がっているのので周辺整備と魅力づくりを努めたい。黒田家16代当主の黒田長高氏にはぜひ、岩谷丁場へ来ていただきたい。

答弁 11月5日の「石の歴史シンポジウム」福田会場は地元の参加



歴史を感じるスポット「天狗岩」

## 野良犬の捕獲について

町「狂犬病予防法にのっとり措置を行う」



谷 康 男 議員

質問 6月の質問に対する町長の答弁に従い、地域住民と協力して野良犬の捕獲を行ってきしたが、地域によっては行政が思い切った対策を講じなければ解決できないと考える。動物愛護法と狂犬病予防法をよく理解の上、法に従い粛々と行うべきではないのか。また町において捕獲人の確保、もしくは捕獲を外部委託できないのか。



野犬に対し思い切った対策を

良犬に対応するには限界がある。

狂犬病予防法にのっとり粛々と措置を行う。捕獲員については県に対し要望する。外部委託については香川県下では行われていないが高知、岡山など近県を参考に検討する。

## 草壁沖の廃棄物護岸の工程について

町「地域活性化につながる利用を考える」

質問 現在草壁沖で進められている廃棄物護岸について、埋め立て完了後の土地については、どのような取り扱いは、どのようなのか。町として利用計画があるのか。

答弁 当初の予定であった下水道処理用地としての利用はなくなつた。この埋め立てによって造成される土地は、小豆島町のまちづくりや地域活性化に寄与する土地にしなければならないと思っている。

オリーブのさらなる植栽・拡大について

町「オリーブを通じたまちづくりを

さらに進める」



中江 正 議員

すべての原発の見直しを地方から

町「原発の再開には、

その安全性の担保が条件である」



森 崇 議員

質問 小豆島町におけるオリーブの植栽は拡大し、小豆島に行くところに行ってもオリーブがある。町が考えているオリーブトッポウを呼びかけ、住民の協力を得ることだと思う。また、果肉を搾って油がとれるオリーブは健康食品として利用されている。更に三都半島、田浦半島、オリーブ公園の農免道路へのオリーブ植栽の拡大は。



さらにオリーブの木あふれる町並みを目指して

回答 オリーブの振興は、オリーブトッポウプロジェクトとして官民で取り組んでいる。植栽技術とブランド力の向上と後継者確保、植栽面積の拡大と、色々な課題に取り組んでいる。オリーブ植栽面積の拡大を行うことが必要だと思う。

オリーブが健康長寿にいいということは、地中海の島々が世界一の健康長寿であることが実証している。来年度には学校給食、家庭でオリーブの活用、オリーブ料理の開発に取り組む。オリーブ植栽は島の玄関口、坂手港に限らず順次計画的

に整備する。また、三都半島や田浦半島の道沿い、オリーブ公園などは、オリーブ並木推進会や香川県などで管理しているが、栽培適地か否かも含め管理する観点から、自治会の自発的な取り組みを望みたい。

質問 3月11日、東日本大震災で津波が起り原発は水素爆発し、建屋配管破裂・冷却水破断・ウランが灼熱し燃料棒は2,000度、炉心が溶けメルトダウン。チェルノブイリと同じレベル7。25年前8,000キロも離れた大阪で母乳から放射性ヨウ素131が検出された。信じられない映像が今も流れている。犠牲者は約2万人、原発近くの9町は50キロ〜100キロ離れ役場を移転。転校者は約2万人。33万人以上が避難・移転。子どもの甲状腺がん検査は36万人。安全神話は崩れた。核実験は米・ソ連などが423回。

「おひさま」から「カーネーション」になった朝ドラは戦争の悲惨さが伝わる。戦争と原発が似ているのは本当のことを国民に知らせないことだ。原子力の平和利用「アトムズ・フォー・ピース」はアイゼンハワーが使ったと知り唖然とした。小豆島に避難された方もおられ温かく接したい。四国伊方原発廃止など「地方から原発見直し」を決意すべきでは。また子どもたちへの対応はどうなっているのか。

回答 以前、柏崎原発を視察したことがあり「ものすごく分厚い壁で安全性が担保されている」と感じた。福島原発事故を見ると安全性の担保がない。安全性の担保が条件であると思っており、質問の主旨と同じ考えである。子どもは副読本で学習している。



福島原発事故を報道するテレビ

奨学金のさらなる拡充について

町「制度の見直しを検討する」

質問 小豆島の産業の人材確保は行政の大きな課題である。  
学校教育課関係の奨学金制度を拡充し、少しでも小豆島に帰ってくるきっかけにするべきだ。

に帰る場合と、一般の場合と、どのような違いがあるのか、どうすれば説明がつくような制度がつけられるかについては研究をし、提案の趣旨に沿って、来年度予算編成までに解決して、議案を提案する。

人員枠を維持した上で、額の増額をする場合は、新たな基金の積み立ても必要となるので、財政担当課とも協議の上で、一定の方向性を見つきたい。



安井 信之 議員

子宮頸がん等3ワクチンの公費助成について

町「継続実施の予定である」

質問 救えるはずの命、防げる病気の命を守る予防接種。

平成23年度末で終了となる小児用肺炎球菌ヒブ、子宮頸がんの24年度の公費助成の継続は。

種法上の定期接種化に向けた検討を行うことになっていく。これを踏まえ現在、対象年齢者に接種をしている。

国は継続実施の方向で検討していることから、町としても平成24年度の継続実施を予定している。今後の継続的な費用の助成については、前向きな答えに



柴田 初子 議員

なるだろう国の方針に適切に対応していきたい。



続くか、ワクチンの公費助成

答弁 奨学金制度は、経済的理由により就学が困難な者に対し、奨学金を貸し付けることにより就学の機会を確保するための制度であるが、奨学金制度は従来に増して小豆島町においては重要であると思う。

指摘のように医療福祉職の奨学金制度と、一般の奨学金制度に差異があることは合理的な理由はないので、額についてはそろえるべきだと思う。

その上で、専門職としての資格を取って島



大いに学び、遊び、そして故郷に戻ってくる環境を

期日前投票の宣誓書について

町「投票率向上の有効な手段であり、十分検討したい」

質問 法令では宣誓書の記載場所の指定はない。有権者の負担を軽減し、投票率の向上につながる期日前投票の宣誓書の自宅での記入は。

答弁 香川県内ではまだ事例はないが、事前に記載ができるよう便宜を図っている自治体もある。指摘のとおり、非常に有効な手段だと思ふ。

また入場券を送付する際に選挙管理委員会が印刷したあて名をもつて、宣誓書の住所、氏名に代えることも可能かと思うが、何点かある問題点について、十分、研究討議をし、県内外の各市町の対応も確認しながら検討したい。

### オリーブ生産者への対応は

町「巡回調査を行い、生産者の声を聞く」



大川 新也 議員

質問 昭和61年、旧内海町において「オリーブワールド構想」策定以来、行政が中心となり進められてきたオリーブ振興事業も、平成15年「オリーブ振興特区」に認定され、企業の農業参入で栽培面積は増大された。

しかし、今年は異常気象、炭疽病の大発生等で、生産者は大打撃を受けたが、被害状況の把握、今後の対応・改善策は。

また、企業参入によりブランド化されてはきているが、その礎を築いた個人生産者への配慮、援助が必要ではないか。  
学校の現状は、どのようなになっているのか。



炭疽病にかかったオリーブの実

答弁 今年も気候変動により、小豆島でもオリーブの生産、栽培が大変難しくなっている。県のオリーブ研究所を中心に、病害虫対策を格段充実しないと栽培も安閑とはしておれない。日本で唯一のオリーブ課が力を発揮する時である。

の声に耳を傾けていきたい。改善策は、基本管理の徹底、将来の指導者の育成、技術講習会を開催し、県と連携して生産者の方へ情報提供を行っていく。園のある学校では、作業日、収穫日を設けて、収穫した実を学校給食に使用しており十分に活用している。

### 国保税の引き下げと患者負担の独自減免措置を

町「国保の赤字解消に基金を活用したい」



村上 久美 議員

質問 国保税の滞納状況は、被保険者の所得減少等で改善の見通しが立たず、高い国保税の払いを求め続ける行政こそ改めるべき。

群馬県太田市は、市民から固定資産税の二重取りとの批判があり、資産税割を廃止して3分方式（所得割・均等割・平等割）に移行し、1世帯1万2千円引き

下げ、その財源は基金の取り崩しで行うとしている。これに学び国保税の引き下げをすべき。また、患者負担の減免制度を。

答弁 国保の赤字解消に基金を活用したい。患者負担の減免措置制度は、今年度中に条例・要綱の設置を検討する。

### 福祉バスのさらなる利活用の向上を

町「安全上困難な所もある」

質問 福祉バスを利用する高齢者は勾配がきつい谷あいの道を通り春日神社まで乗降している。安心して利用できるよう奥の町道路線まで運行し、特に通院の利活用が多い時間帯で実施を。

質問 特定健診は、毎年受診率が下がり、県下9町で一番低い。これを改善するためには心電図や眼底等のメニューを増やし受診率を高める必要がある。また、女性特有のがん検

診を除く他のがん検診の自己負担額は県下で高い。受診向上のために自己負担軽減を。

答弁 特定健診は心電図・貧血の検査を増やし、受診率の向上に取

答弁 農繁期の路上駐車等で西山の奥までの運行は、安全上困難である。



### 登録有形文化財維持 保全支援要綱について

町「醬の郷の役割は重要  
要綱の弾力的運用を図る」

質問 地域の景観と活性化を図るため、登録有形文化財維持保全支援要綱が12月1日より施行される。現在町内には、94件の登録有形文化財があり、文化財1件当たり5万円が交付税に含まれ、これまでに約3,500万円が交付され町の財源になっっているが、古くなり風水害等で修理を必要とする文化財を、町は一切の支援をしていない。要綱の中で、(1)予算の範囲内で支援とはいくらの予算か、(2)単年度の15万円は少額すぎるのでは、(3)町長が認められた時は額を変更できるとあるが最高額はいくらか、上限はあるのか。これからの文化財の有り様は。

要綱の弾力的運用を図る

答弁 醬の郷条例に基づいたもので、具体的な申請があった段階で判断する。指定文化財は限度額が100万円なのでそれに準じて弾力的かつ大胆に対応していく。

再来年に瀬戸内国際芸術祭が開かれ、醬の郷の役割は極めて重要である。地域の宝物、貴重な景観の維持保全



植松勝太郎 議員

を目的として支援事業を創設した。

今年度は15万円×5件で、75万円である。予算額を超過する場合は、補正予算で対応したい。町を挙げるぐらいの規模で行いたい。新たな登録も行い、補助限度額についても申請内容に応じて補助要綱の改正等も想定し運用していく。



醬の郷の魅力を高めよう

### 消費税増税に反対を

町「政府案には共感しないが、消費税の引き上げは不可欠」

質問 社会保障制度の大改悪と消費税増税という、サービスの切り捨てと国民負担増が、庶民の暮らしに大きくのしかかる「税と社会保障の一体改革」には断固反対の声を上げるべきでは。

答弁 政府提案には、全く共感を覚えないが、地域の活性化、地方自治体の財源として、消費税の引き上げは不可欠と考える。



鍋谷真由美 議員

### 病院統合で医師確保の保証はあるのか

町「県の医療関係者との信頼関係が維持されるなら、心配ない」

質問 先に病院の統合ありきではなく、日常的な医療に対する協力的な関係の積み重ねが必要で、どんな地域医療、病院をつくるのかというところが大切だ。全国では一方的な病院の再編の結果、地域医療の切り捨てや労働条件の悪化をまねいたり、

立派な病院を新築したが、医師が集まらず、巨額の赤字を計上する自治体もある。新病院に対し、県や香川大学などが、医師確保のために具体的にどのような支援をしてくれるのか。町民の声を聞き、一緒に考え、町民の願いに応える中身で国、



新聞折込されたパンフ

県に具体的な支援を求めることが必要ではないか。

答弁 町長就任以来、医師を派遣してほしいと奔走したが、実現できなかった。病院統合は、まさに必要な医師を確保するためである。県の医療関係者との信頼関係が維持されるならば、全く心配ないと思う。私も政治生命をかけるつもりだ。

# 視察研修報告

総務建設・教育民生の両常任委員会は合同で、平成23年10月19日から21日にかけて視察研修を行いました。

## 熊本県御船町

### 研修事項

『議会活性化の取り組みについて』

### 研修を終えて

小豆島町議会活性化特別委員会でも議論されている議会改革の諸問題は、その多くが御船町議会基本条例に盛り込まれ、すでに実施されている。

若い人達の政治参加を望んでいるが、関心が薄い等々、抱えている問題は少なくない。



活性化の取り組みについて質問 (御船町)



御船町本会議場 (御船町)

## 熊本県天草市

### 研修事項

『オリーブ振興の取り組みについて』

### 研修を終えて

九州を中心にオリーブ栽培が盛んになってきている実態を学ぶ必要がある

住民のために議員はどうあるべきかを真剣に考え、議員自らが意欲的に努力していることなど、我々の参考にすべき点が多く含まれていた。



オリーブ栽培に企業が参入 (天草市)

要があると考え、天草市を訪ねた。取り組みの背景は小豆島と似ている面が多い。大きな違いは年間降雨量が多いということである。今年には特にオリーブの開花・受粉時期に雨が多かつたため、ほとんど着果せずとのことだった。



ゴルフ場跡地に植えられたオリーブ (天草市)

しかし、今後企業も参入しており、潤沢な資金と広大な耕作放棄地を使って、大規模に栽培拡大をし、品種改良などにより気候的なハンデが克服できれば、小豆島にとって大きな脅威になると感じた。小豆島がトップワンであり続けるため、官民挙げての取り組みが必要であると実感した。

## 長崎県南島原市

### 研修事項①

『障がい者福祉事業について』

### 研修を終えて

南島原市のグループホームや各種の就労支援施設の状況を目の当たりにし、我が町の障がい者福祉は、大変遅れた状況にあると感じた。これからの課題として、障がい者が地域の中で安心して生活できるように、地域を挙げた取り組みや事業者の誘致等も検討すべきであり、地域の中で障がいの有無に関係なく、共に生きる環境づくりが重要であると感じた。



就労支援施設の視察 (南島原市)

今後、国の障がい者福祉施策の充実に期待するとともに、小豆島町における障がい者福祉の推進について、行政と議会が積極的に取り組まなければならぬと感じた。



雲仙普賢岳を前に (南島原市)

研修事項② 『雲仙普賢岳被災地 (南島原市深江地区) の営農復興について』  
 このような未曾有の災害が発生した場合、まず国・地方自治体の復旧復興に向けた迅速な対応が重要であることはもちろんであるが、被災した人たちが行政の支援をただ待つのではなく積極的に災害からの復興に向け自主的に立ち上がり行動することが大切であると実感させられた。  
 島原深江地区土地改良区の皆さんの災害復興「前よりもつと豊か」な地域農業の再生に向けた情熱と努力に対し深い感銘を受けるとともに、もしもの災害に遭った時、その災害から復興へ向けての心構えを教えられた。

# 住民の声 Vol.23



## 過疎化の今こそ

### 島はひとつ

中塚元三  
(入部自治会会長)

入部地区は小豆島町の西の端にあり、人口2000人余りの小集落です。古くは廻船業が盛んで浜には倉庫が幾棟も立ち並び栄えた集落でしたが、今ではこれといった産業もなく勤め人が大半の集落です。近年は過疎化と高齢化が進み、地区清掃、災害時の避難、秋祭の太鼓台奉納等、地区活動にもやがては支障をきたすのではないかと心配しております。

さて、新しく小豆島町ができて6年が経過しようとしていますが、社会構造が大きく変わっていく中で、私はやはり小豆島はひとつであるべきだと常々思っています。

人口減少に歯止めがかからない小豆島において、現在、病院の統合、高校の統合、小中学校の統合等、問題が山積しており、統合をしないと存続自体が危ぶまれる状況にきております。そんな状況の中

で島に2つの町があり、2つの町が協議して決めると非常に効率の悪い行政体制となっており、あえて選択せざるを得なかった2町合併だったのでしようが、病院統合のこの機会にこそ、小異を捨てて大同につくべきではないかと思えます。

30年後の小豆島に子や孫が安心して暮らしていけるよう、政治に携わる方々、行政に携わる方々は『島はひとつ』の理念を推進していただきたくお願い申し上げます。



## 星城クラブ

(野球)



星城クラブは、現在1年生から5年生まで26名で活動しています。練習は土曜・日曜日に一日練習をしています。今はオフシーズンなので、マラソン・坂道ダッシュ・なわとびに力を入れ体力作りに励んでいます。

また、3年生以上は「野球ノート」を書いて自分と向き合う時間も持たせています。

日々の練習の成果が実り、昨年10月小豆郡学童軟式野球新人戦大会では優勝することができました。

しかし、県大会では惜しくも1回戦で負けてしまいました。

これからは、県大会でも1回、2回と勝ち進み

ベスト8以上を目標に頑張っていきます。

そのために、今自分たちは何をすべきかをよく考え守備力・打撃力強化はもちろんのこと個々のレベルアップを図りたいと思っています。

今後も、皆様の応援よろしくお願いいたします。



## 編集後記

新年を迎え町民の皆様はご健勝でお過ごしと思われまふ。昨年、3月に発生した東日本大震災、津波被害による東京電力福島第一原子力発電所の爆発、そして放射能の汚染問題。今なお続く避難生活があり、集団移転をせざるをえない町があると報道されています。

人々の放射能被ばくの恐れや農産物の出荷停止など、遠くの町の問題ではないという気持ちを持ちたいものです。

今年、安全・安心して住める一年であることを願うばかりです。

小豆島の将来を見据えて、昨年からの検討されている病院の統合・高校の統合問題など、決断・決定をすべき年になるか、しなければいけない年だと思えます。

今後も皆様に限られた紙面で理解していただけるよう努力してまいりますので、ご意見、ご感想をお寄せください。

本紙に対するお問い合わせは

発行 小豆島町議会 ■編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL(0879)75-1100 FAX(0879)75-0108